

# 学修ポートフォリオ二年目の比較検討

三宅 元子・白井 靖敏・安井 健

## Comparison of Learning Portfolio Second Year

Motoko MIYAKE, Yasutoshi SHIRAI and Takeshi YASUI

### 1. 目 的

現在、大学では、三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の策定と公表が義務化され、学生の学修成果の観点から教育活動の改善・進化につながるカリキュラム改革が行われている。なかでも、大学教育における質的転換に向けた仕組みの一つに、学生自身による学修の達成状況を点検・改善するツールとしてポートフォリオの導入が示されている。学修ポートフォリオは、中央教育審議会の答申「学士課程教育の構築に向けて」（2008年）や「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(2012年)において導入と活用が提言されて以来、取り入れる大学が増えつつある。N大学（以下、本学）においても、「学生に自律的、能動的に学修する習慣を身に付けさせる」ことを目標に、2016年度から学生の学修履歴の記録と自己管理のための仕組みを整備する方策として、学修ポートフォリオを試験的に実施した<sup>1)</sup>。一年目（2016年度）は紙媒体とし、1回の授業ごとに記入するページが14回分、15回目の授業終了時には全体の学修を振り返って記入するページの合計15回分が綴られた小冊子で行った。各記入シートの内容は、予習、授業、復習という学修過程の流れがスムーズに行えるように①予習内容と時間、②授業内容、③復習内容と時間、④授業中に質問した内容、⑤授業の理解度の合計5項目を設けた。学生が15回書き終えた段階でアンケート調査を行った結果、学修ポートフォリオ導入の効果は、授業の振り返りができ授業内容の理解が深まった点、学生一人ひとりの授業内容への興味・関心、受講意欲が高まった点であると報告した<sup>2)</sup>。一方、問題点は、学生の記入する一人あたりの学修ポートフォリオが学期ごとに8冊程度となり持ち運びに負担がかかること、教員は多数（100人以上）の受講者のいる講義科目では回収する負担が大きいことなどである。二年目（2017年度）は、それらの改善点をふまえて電子媒体のポートフォリオ（以下、学修eポートフォリオ）を導入し、パソコンやスマートフォンから記入できる様式に変更した後、1、2年生を対象とした講義科目で実施した。

本稿では、学修eポートフォリオを継続して実施するために、1年次で学修ポートフォリオ（紙媒体）、2年次で学修eポートフォリオを使用して記入した2年生を対象に導入後の二年間を比較し、その効果と問題点、および今後の課題について検討することとする。

## 2. 方 法

### 2.1 学修eポートフォリオの導入

学修eポートフォリオを実施するまでの経緯は次の通りである。

2017年2月に、システム導入に関する打ち合わせを業者と学部長、学術情報センター職員、担当教職員とで行った。本学ではすでにCaLabo LMS（チエル株式会社）が設定されていたことから、同じシステム上で作動するGlexa web multimedia LMSを増設することとした。学修eポートフォリオの記入シートの内容は、基本的には一年目に使用したフレームと同じとし、①予習内容と時間、②授業内容、③復習内容と時間、④授業中に質問した内容、⑤授業の理解度に⑥自由記述を加えた合計6項目を設けた。実施に向けて、3月には教員用と学生用の「学修eポートフォリオ操作マニュアル」を作成してWeb上に公開した。教職員を対象に3月および4月の2回に渡り説明会を開き、マニュアルに基づいた活用方法について説明した。学生への周知は4月に行われる新入生と上級生（2年生から4年生）オリエンテーションで文書と口頭で行ない、各科目の担当教員も授業内で記入を促した。以上の準備段階を経て、本格的な実施は履修登録が確定する5月中旬からとした。

### 2.2 学修ポートフォリオの実施方法

実施上の注意点では、一年目と同様に大学情報システム研究委員会の「学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて（中間まとめ）」<sup>3)</sup>に示されている学修ポートフォリオの導入にあたり留意すべき点を参考にし、次のことを申し合わせた。

授業担当教員は、学修eポートフォリオの記録状況について一定の割合で成績評価に組み入れることをシラバスに明記する。15回の授業のうち少なくとも2回は確認し、学生の学習状況や活用状況を把握して評価する。成績評価における学修eポートフォリオの占める割合は、試験やレポートなどと同等に扱うものとし、各教員の判断に委ねる。

### 2.3 学修ポートフォリオの効果検証の方法

学生に実施したアンケート調査により行った。

#### 2.3.1 調査対象者および調査時期

調査対象者（以下、学生）は、本学A学部B学科およびC学科の2年生70名（女子）である。調査用紙は記名式で択一式回答および記述式による自由回答である。調査時期は2017年7月であり、授業終了直前の15分程度で行われた。なお、調査は本学の個人情報取得許可の承認を得て実施された。

#### 2.3.2 調査の内容

アンケート調査項目は、2016年度に使用した領域<sup>4)</sup>に準じ（Ⅰ）学修eポートフォリオの記入状況、（Ⅱ）予習と復習の状況、（Ⅲ）学修に対する意識、（Ⅳ）学修eポートフォリオの記入に対する意識、（Ⅴ）学修ポートフォリオ記入媒体での比較の5領域について作成し、領域によっては一部電子媒体に関する質問を加えた（参考資料1）。

（Ⅰ）学修eポートフォリオの記入状況は5項目（科目数、記入時期、記入場所、記入時間、記入機器）であり、（Ⅱ）予習と復習の状況は8項目（予習時間、復習時間、予習場所、復習場所、予習形態、復習形態、予習媒体、復習媒体）である。（Ⅲ）学修に対する意識は、高橋ら<sup>5)</sup>の作成した調査項目を参考に18項目（学習意欲が向上した他）を作成し、（Ⅳ）学修ポートフォリオの記入に対する意識は5項目（負担を感じた、難しかった、意義がある、今後も続けたい、

自分の学習成果として就職に役立てたい」とした。(V)学修ポートフォリオ記入媒体での比較は3項目(「学修eポートフォリオ」の方が使いやすい、「学修eポートフォリオ」の方が身近で便利、「学修eポートフォリオ」の方が記入しやすい)であり、自由記述は2項目(よかった点、負担感や難しかったところおよび改善点)である。調査用紙の詳細は参考資料1に示す。

### 2.3.2 分析対象者と統計処理

分析対象者は、アンケート用紙の回答に欠損値のなかった70名である。

統計処理はすべてIBM SPSS22.0 STATISTICSを使用した。(VI)学修ポートフォリオに関する自由記述を除いた(I)～(V)は単純集計をし、検定にはPearsonの相関係数を用いた。なお、相関の基準値はいずれも森・吉田<sup>6)</sup>に従い、 $0.2 < |r| \leq 0.4$ を弱い相関あり、 $0.4 < |r| \leq 0.7$ を比較的強い相関あり、 $0.7 < |r| \leq 1.0$ を強い相関ありとした。

## 3. 結果

### 3.1 アンケート調査結果

(I)学修ポートフォリオの記入状況から(V)学修ポートフォリオ記入媒体での比較につ

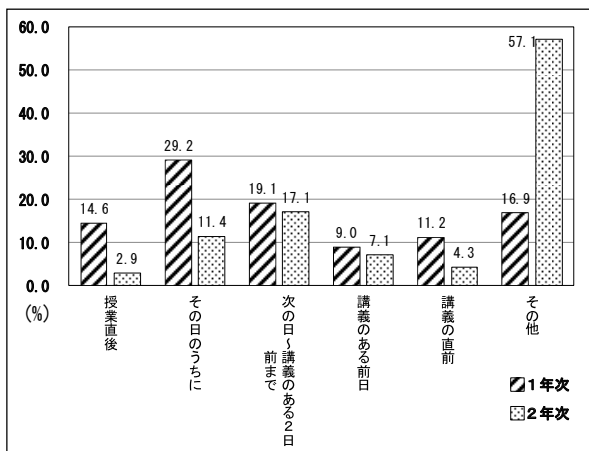


図1. 学修ポートフォリオの記入時期

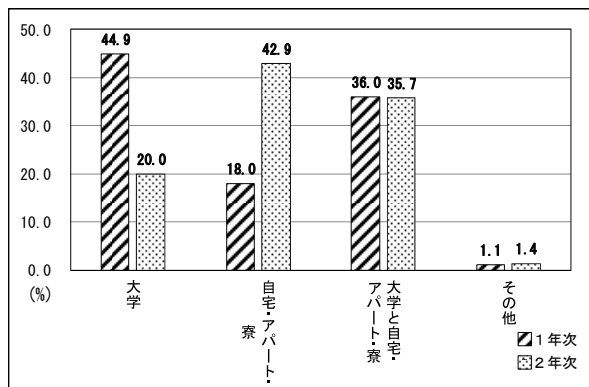


図2. 学修ポートフォリオの記入場所

いて、1年次と2年次とで比較する。なお、使用する1年次の資料は、調査対象者の1年次での数値をまとめたものである。

(I)学修ポートフォリオの記入状況では、学生一人あたりの平均記入科目数は1年次8.1科目、2年次7.8科目であり、ほとんど増減は見られなかった(表省略)。記入時期(図1)は、1年次では「その日のうちに」が最も多く29.2%、「授業直後」とあわせて43.8%であり、約半数がその日のうちに記入していた。2年次では、「次の日～講義のある2日前まで」が最も多く17.1%であり、「講義の直前まで」とをあわせて28.5%であった。半数以上(57.1%)を占めている「その他」は、「提出期限の直前にまとめて書いた」、「ためて書いた」が多かった。学修ポートフォリオの記入場所(図2)は、1年次では「大学」が44.9%で最も多かった。2年次では「大学」が約半数の20.0%に減少し、逆に「自宅・アパート・寮」が42.9%であり、1年次(18.0%)の2倍以上に増加した。

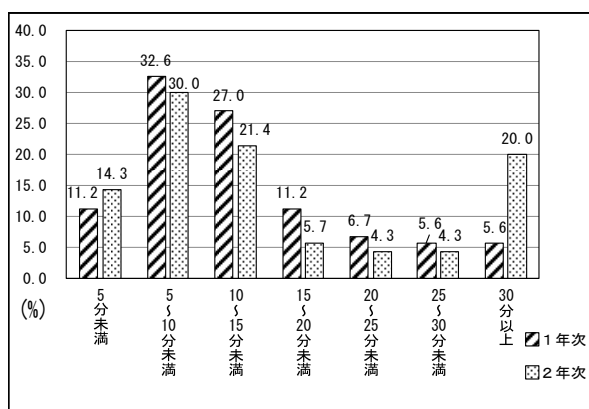


図3. 学修ポートフォリオの平均的な記入時間

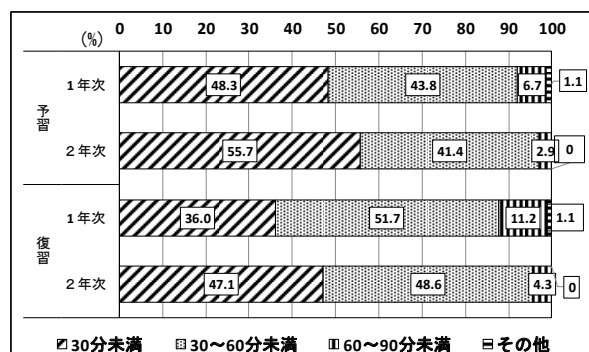


図4. 予習と復習の1日あたりの平均的な時間

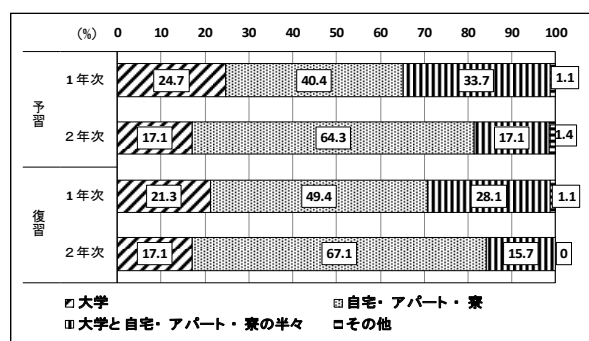


図5. 予習と復習のおもな場所

1日あたりの平均的な記入時間(図3)は、2年次では「5～10分未満」(30.6%)が最も多く、「10～15分未満」(21.4%)の順であった。1年次とほぼ同じ傾向ではあるが、「30分以上」が20.0%であり、約15%増加していることが確認された。このことは、使用した電子機器が「おもにパソコン」が48.6%と多く、次いで「おもにスマートフォン」が32.9%「パソコンとスマートフォンの半々」が18.6%であった(表省略)ことから、パソコンの操作に時間がかかったことが要因ではないかと考えられる。一方、記入内容の質が向上したからとも考えられる。記入時間の長さは「学修eポートフォリオ」に対する負担感あるいは達成感などの意識や意欲、継続性に影響を与える可能性が考えられるため原因の特定は今後精査する必要がある。

(Ⅱ) 予習と復習の状況について、1日あたりの平均的な予習と復習の時間を示す(図4)。1年次、2年次のいずれも平均的な予習と復習時間は60分未満が80%以上を占めた。また、予習と復習時間では、1年次( $r=0.846$ ,  $p<0.01$ )と2年次( $r=0.814$ ,  $p<0.01$ )のいずれも正の強い相関を示したことから、1年次も2年次も予習(あるいは復習)時間が長い学生は復習(あるいは予習)時間も長いことが確認された。また、2年次では学習時間の減少が顕著であり、予習と復習のいずれも30分未

満が1年次よりも10%程度増加し、逆に60～90分未満が5%程度減少した。予習と復習のおもな場所(図5)は、どちらも最も多いのが「自宅・アパート・寮」であった。特に、2年次では、1年次よりも20%程度増加しており、大学以外の場所で学習する傾向にあることがわかった。予習と復習のおもな形態(表1)は、1年次と2年次のいずれも「個人」が90%以上であり、ほとんどの学生が一人で学習する状況は変わらない。予習と復習に用いた媒体(表2)は、80%以上が「教科書・ノート」であり、「パソコンや携帯・スマートフォン」が10%程度であ

表1. 予習と復習のおもな形態

			個人	友人と共同	合計
予習	1年次	人数	84	5	89
	(N=89)	%	94.4	5.6	100
	2年次	人数	69	1	70
	(N=70)	%	98.6	1.4	100
復習	1年次	人数	82	7	89
	(N=89)	%	92.1	7.9	100
	2年次	人数	70	0	70
	(N=70)	%	100.0	0.0	100

表2. 予習と復習に用いたおもな媒体

		(複数回答)					
		教科書・ ノート	図書館の 本	パソコン や携帯・ スマホ	その他	合計	
予習	1年次	人数	82	3	10	0	95
	(N=89)	%	86.3	3.2	10.5	0.0	100
	2年次	人数	63	0	7	3	73
	(N=70)	%	86.3	0.0	9.6	4.1	100
復習	1年次	人数	88	4	7	1	100
	(N=89)	%	88.0	4.0	7.0	1.0	100
	2年次	人数	64	0	7	1	72
	(N=70)	%	88.9	0.0	9.7	1.4	100

た。「図書館の本」は、2年次ではまったく使用されていなかった。

(Ⅲ) 学修に対する意識は、18 項目の質問に対し、「非常に思う」5点、「やや思う」4点、「どちらでもない」3点、「あまり思わない」2点、「まったく思わない」1点を付与した。5点満点での平均値を算出し、1年次の得点が高い項目から降順に並べ替えた(図6)。その結果、2年次は、「予習方法が変わった」を除く17項目において、1年次よりも約1ポイント低かった。一般的に「学年が上がるにつれて大学生活に慣れ、学習時間が減少する」といわれていることからみても、学修eポートフォリオは学びを振り返り学習時間を確保するための歯止めにはなっていないといえる。

(Ⅳ) 学修ポートフォリオの記入に対する意識(図7)も、学修に対する

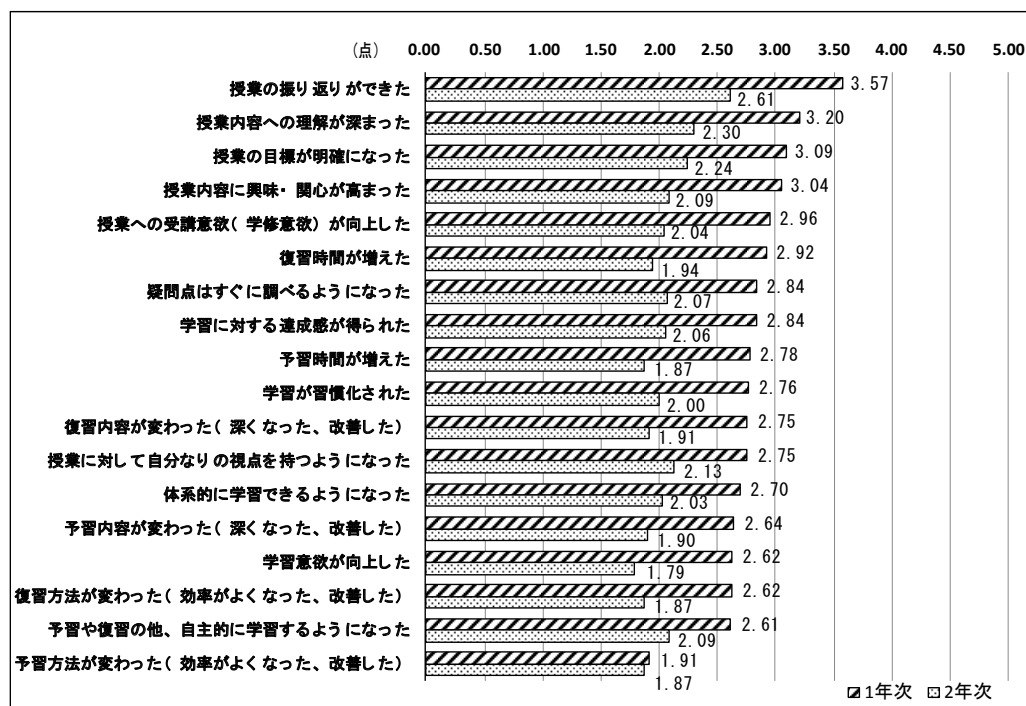


図6. 学修に対する意識

意識（図6）と同様に、5項目の質問に対して「非常に思う」5点から「まったく思わない」1点を付与し、5点満点の平均値を求めて比較した。「負担を感じた」では、2年次で0.32ポイント高くなっている。一方「難しかった」は、2年次で0.14ポイント減少していることから、学生の感じた負担感は、内容よりもむしろ学修eポートフォリオの設備環境や使いにくさに起因するものであると推察された。このことは、自由記述において、「Wi-Fiがつながっていない」「アクセスするのが面倒」「パソコンは開くのに時間がかかる」（参考資料2）などが記入されていたことからわかる。その一方で、「自分の学修成果として就職に役立てたい」が2年次で高くなっていることから、学修ポートフォリオを学びの成果として位置づけている側面がうかがえる。

（V）学修ポートフォリオ記入媒体での比較（図8）は、3項目（学修eポートフォリオの方が使いやすい、学修eポートフォリオの方が身近で便利、学修eポートフォリオの方が記入しやすい）のすべてにおいて、約半数が「まったく思わない」と回答している。ここでも、学生は、学修eポートフォリオが1年次に用いた紙媒体と比べて使いにくいと感じている実状が明らかとなった。

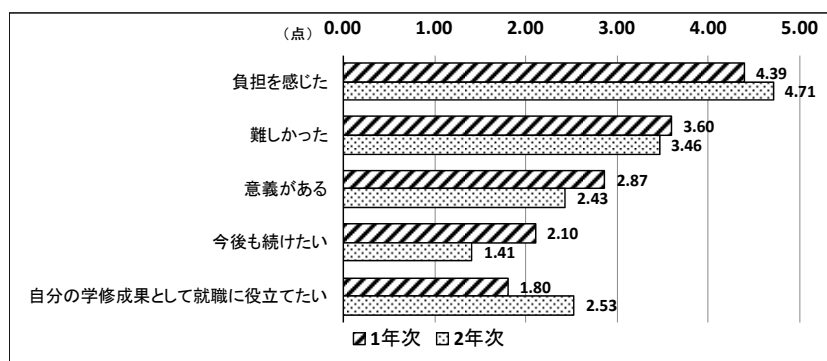


図7. 学修ポートフォリオの記入に対する意識

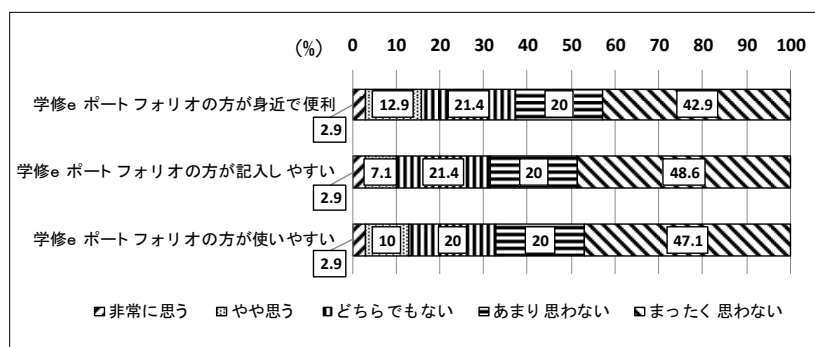


図8. 学修ポートフォリオ記入媒体での比較

#### 4. 考 察

学生自身による学修の達成状況を点検・改善するツールとして導入した学修ポートフォリオの効果と問題点、および今後の課題について（Ⅰ）学修ポートフォリオの記入状況、（Ⅱ）学生の予習と復習の実状、（Ⅲ）学修に対する意識、（Ⅳ）学修eポートフォリオの記入に対する意識、（Ⅴ）学修ポートフォリオ記入媒体での比較に関する調査結果から検討する。

2年次における学修eポートフォリオの記入状況は、講義のあった日より次の日から次の講義の直前まで、あるいは「ためて書いた」「提出直前にまとめて書いた」という1年次と異なる実状であった。このことは、半数以上が大学以外の「自宅・アパート・寮」で記入していることからみても、いつでもどこでも書き込むことができる電子媒体の手軽さによる問題点と考えられる。学修ポートフォリオの目的は、学生が継続的かつ定期的に学びを振り返ることを通じて学習の到達度を確認し、取り組むべき課題を発見するためのものである。しかし、手軽がゆえ、提出直前にまとめて書くようでは本来の目的や意義が達成されないまま、記入しただけに留まってしまうことになる。また、1日の平均的な予習と復習の時間は、いずれも60分未満が80%以上であり、1年次と同様に正の強い相関( $r=0.814$ ,  $p<0.01$ )が見られた。予習と復習時間は関連があることから、予習と復習をしている学生がいる一方で、予習も復習もしない学生がいることを示している。特に、予習と復習時間が30分未満の学生が60%以上いることは問題であり、対策を講じる必要がある。その一つとして予習と復習を大学内でするように促すことが改善に繋がるのではないかと考えられる。2年次では、おもな復習の場所は「自宅・アパート・寮」が1年次よりも約20%増加していることから、例えば、ラーニングコモンズとしての大学図書館等の積極的な活用を促進するよう仕掛けることである。教員がグループやペアで行う課題を与え、大学内で協働（協調）学習（collaborative learning）ができるように職員と協力して環境を整えることも一つである。協働（協調）学習は、個人学習よりも学習効果が高いこと、動機づけやコミュニケーション能力、相互調整能力に効果があるといわれているため、意欲を喚起し学習時間の確保につながり学習習慣を身に付ける手立てとなり得るのではないかと考えられる。

次に、学修に対する意識では、1年次で最も高かった「授業の振り返りができる」や「授業内容への理解が深まった」など、ほとんどの項目において1年次よりも低かった。この要因の一つには、学修eポートフォリオシステムの問題が考えられる。学修ポートフォリオ（紙媒体）と学修eポートフォリオを比較した結果（図8）では、学修eポートフォリオが使いにくいと感じている学生が多い。1年次では授業の振り返りができ授業内容の理解が深まった点で、学修ポートフォリオの導入に効果がみられたものの、2年次では自由記述において「Wi-Fiを通して欲しい」「編集する際、少しやりづらい」「ケータイでは低速になる」（参考資料2）などのシステムや操作上の問題点を指摘している。操作上のストレスが学修意欲に影響したものと推察される。

学修ポートフォリオの導入に関しては、「学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて（中間まとめ）」<sup>7)</sup>において、学生・教職員・大学組織における問題点があげられている。特に学生の問題点として、①ポートフォリオの意義・目的およびメリットが理解されていない、②効果的な学修方法を身につけようとしない、③学修状況の書き込みを継続しないの3点があげられている。本調査結果から明らかとなった問題点も、②効果的な学修方法を身につけよ

うとしない、③学修状況の書き込みを継続しないである。特に、③学修状況の書き込みを継続しないについては運用上の問題点があり、設備環境とシステムが十分整っておらず操作しにくかったことも要因の一つと考えられる。

今後、学修eポートフォリオを継続するための課題は、まず学修ポートフォリオの意義や利用のメリットを学生へ明確に提示することおよび教職員間の共通理解を得ることである。特に、学修ポートフォリオは、「学生自身が自己点検・評価を通じて学びの振り返りを効果的に行い、取り組むべき課題を発見できる手段として用いられるツールである」と示すことが重要である。このことは、2年次において「自分の学修成果として就職に役立てたい」（図7）と考えている学生もみられることから、自身の就職はもとより生涯にわたり身に付けるべきキャリア「能力」を形成するために活用できることを示していく必要がある。次に、学生の学びを深めるためには、学習記録の内容や振り返りに対する教員のコメントなどのフィードバックが重要である。学生が「先生方の中でも理解や意識に差がある。」「ポートフォリオを評価に入れない先生やチェックをして下さらない先生もいる。」「ポートフォリオを知らない非常勤の先生が多い。」（参考資料2）と指摘していることから、支援体制を継続的に要請していく必要がある。支援体制に関しては、学生の自由記述について詳細に分析し、きめ細やかな学習支援を検討しなければならない。最後に、学修eポートフォリオを実施するために、パソコンやスマートフォンで簡単に操作できるプログラムに変更していくことである。

## 5. 要 約

本研究では、学修eポートフォリオの記入から学生の予習と復習に対する達成度、学修に対する意識について調査し、その問題点を明らかにし今後の課題を整理した。

（1）二年目の問題点は、Wi-Fi環境が整っていない環境下で実施したため、スマートフォンを利用する場合に金銭的負担が生じたことや、学修eポートフォリオの操作手順が煩雑であったことである。学修eポートフォリオを実施し定着させるためには、設備環境を整える必要がある。

（2）学修eポートフォリオの導入にあたり、その意義・目的およびメリットを学生が十分理解していなかったこと、非常勤講師など教員間に十分な共通理解ができていなかったことである。そこで、学修ポートフォリオの活用の意義やメリットを学生に明確に提示すること、教員間には共通理解のための趣旨説明と評価項目への設定等を繰り返し依頼することが重要である。

## 付記

本稿は、「平成29年度 名古屋女子大学教育特色化推進経費」を受けて実施された成果の一部である。

## 参考文献・引用文献

- 1) 三宅元子・白井靖敏、学修ポートフォリオの導入と検証、名古屋女子大学紀要第63号 P89-100、(2017)
- 2) 前掲1)
- 3) 大学情報システム研究委員会、学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて（中間まとめ）、(2013)
- 4) 前掲1)
- 5) 高橋哲也・星野聡孝・溝上慎一、学生調査とeポートフォリオならびに成績情報の分析について、京都大学



高等教育研究第20号 P1-16、(2014)

6) 森敏昭・吉田寿夫、心理学のためのデータ解析テクニカルブック、吉田書房、220、(1990)

7) 大学情報システム研究委員会、学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて(中間まとめ)、(2013)

## 参考資料1: アンケート調査用紙

調 査 表						
この調査は、平成29年度から学修eポートフォリオ(電子版)を継続して実施していくにあたり、より充実させるために行うものです。成績評価には一切関係ありません。						
以下の問について、番号(1、2、など)が記されているものは、あてはまる数字を○で囲んで下さい。記入する項目につきましては、具体的な文章あるいは数字等でお答え下さい。						
学 科						
1. 生活環境	2. 家政経済					
3. 食物栄養						
学 籍 番 号 ・ 氏 名 ( )	( )					
I. 「学修eポートフォリオ」の記入						
現在記入している「学修eポートフォリオ」の科目数。						
1. 1科目	2. 2科目	3. 3科目	4. 4科目	5. 5科目	6. 6科目	7. 7科目
8. 8科目	9. 9科目	10. 10科目	11. 11科目以上			
2 「学修eポートフォリオ」はいつ頃記入しましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)						
1. 授業直後	2. その日のうちに	3. 次の日～講義のある2日前まで	4. 講義のある前日			
5. 講義の直前	6. その他( )					
3 「学修eポートフォリオ」はどこで記入しましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)						
1. おもに大学	2. おもに自宅・アパート・寮	3. 大学と自宅・アパート・寮の半々				
4. おもに学校・自宅・アパート・寮以外( )						
4.1 「学修eポートフォリオ」の平均的な記入時間はどのくらいですか。(最も回数の多い場合で答えてください)						
1. 5分未満	2. 5分～10分未満	3. 10分～15分未満	4. 15分～20分未満			
5. 20分～25分未満	6. 25分～30分未満	7. 30分以上				
4.2 「学修eポートフォリオ」を記入した電子機器は何ですか。(最も回数の多い場合で答えてください)						
1. おもにスマートフォン	2. おもにタブレット	3. パソコンとスマートフォンの半々				
II. 学習・復習						
5 1日の平均的な学習時間はどのくらいですか。						
1. 30分未満	2. 30分～60分未満	3. 60分～90分未満	4. 90分～120分未満			
5. 120分以上	6. その他( )					
6 1日の平均的な復習時間はどのくらいですか。						
1. 30分未満	2. 30分～60分未満	3. 60分～90分未満				
4. 90分～120分未満	5. 120分以上	6. その他( )				
7 学習はどこで行いましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)						
1. おもに大学	2. おもに自宅・アパート・寮	3. 大学と自宅・アパート・寮の半々				
4. おもに学校・自宅・アパート・寮以外( )						
8 復習はどこで行いましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)						
1. おもに大学	2. おもに自宅・アパート・寮	3. 大学と自宅・アパート・寮の半々				
4. おもに学校・自宅・アパート・寮以外( )						
9 学習は個人やグループで行いましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)						
1. おもに個人	2. おもに友人と共同	3. その他( )				
10 復習は個人やグループで行いましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)						
1. おもに個人	2. おもに友人と共同	3. その他( )				
11 学習するために使用した媒体はなんですか。						
1. おもに教科書・ノート	2. おもに図書館の本	3. おもにパソコンや携帯・スマホ				
4. おもに雑誌	5. おもに友人や周囲の人などへの聞き取り					
6. その他( )						
12 復習するために使用した媒体はなんですか。						
1. おもに教科書・ノート	2. おもに図書館の本	3. おもにパソコンや携帯・スマホ				
4. おもに雑誌	5. おもに友人や周囲の人などへの聞き取り					
6. その他( )						

III. 学修に対する意識					
「学修eポートフォリオ」を記入することについて、該当の項目の番号を○で囲んで下さい。					
項 目	非常に思う	やや思う	どちらでもない	あまり思わない	まったく思わない
1 学習意欲が向上した	5	4	3	2	1
2 学習時間が増えた	5	4	3	2	1
3 復習時間が増えた	5	4	3	2	1
4 学習方法が変わった(効率がよくなった、改善した)	5	4	3	2	1
5 学習内容が変わった(濃くなった、改善した)	5	4	3	2	1
6 復習方法が変わった(効率がよくなった、改善した)	5	4	3	2	1
7 復習内容が変わった(濃くなった、改善した)	5	4	3	2	1
8 授業内容に興味・関心が高まった	5	4	3	2	1
9 授業への受講意欲(学修意欲)が向上した	5	4	3	2	1
10 授業の目標が明確になった	5	4	3	2	1
11 授業内容への理解が深まった	5	4	3	2	1
12 疑問点はすぐに調べるようになった	5	4	3	2	1
13 授業の振り返りができた	5	4	3	2	1
14 授業に対して自分なりの視点を持つようになった	5	4	3	2	1
15 学習や復習の他、自主的に学習するようになった	5	4	3	2	1
16 体系的に学習できるようになった	5	4	3	2	1
17 学習が習慣化された	5	4	3	2	1
18 学習に対する達成感が得られた	5	4	3	2	1

IV. 「学修eポートフォリオ」の記入に対する意識					
項 目	非常に思う	やや思う	どちらでもない	あまり思わない	まったく思わない
19 負担を感じた	5	4	3	2	1
20 難しかった	5	4	3	2	1
21 意義がある	5	4	3	2	1
22 今後も続けたい	5	4	3	2	1
23 自分の学修成果として数値に役立っていた	5	4	3	2	1

V. 「学修eポートフォリオ」記入媒体での比較					
「学修eポートフォリオ」(電子版)と「学修eポートフォリオ」(電子版)と比べてどうでしたか。該当の項目の番号を○で囲んで下さい。					
項 目	非常に思う	やや思う	どちらでもない	あまり思わない	まったく思わない
24 「学修eポートフォリオ」(電子版)の方が使いやすい	5	4	3	2	1
25 「学修eポートフォリオ」(電子版)の方が身近で便利	5	4	3	2	1
26 「学修eポートフォリオ」(電子版)の方が記入しやすい	5	4	3	2	1

「学修eポートフォリオ」の記入に満足したところを具体的にあげて下さい。

「学修eポートフォリオ」の記入に満足しなかったところを具体的にあげて下さい。また、それらに対する改善点も記入して下さい。

記入欄が不足する場合は、裏面を使ってください。 ご協力ありがとうございます。

## 参考資料2: 負担感や難しかったところの自由記述(一部抜粋)

紙がいい。紙の方が荷物になるが、まだよかったです。

導入開始が遅すぎて、ためざるをえなかった。

いちいちアクセスするのがめんどくさく、よけい書くのが嫌になった。わざわざwebに入ってログインするのが大変。

電子機器を使うのが面倒だった。手で直接紙に書いた方がやりやすい。編集する際少やりづらい。

紙の方がやりやすい。Wi-Fiが無いと通信制限で利用できない。

スマホでできるようにするのだったら大学にWi-Fiを通してほしい。

めんどくさい。これで学習意欲が向上すると思ってない。

携帯でやろうとしていたが、低速になることを考えてできなかった。

インターネットに接続しないといけないところ。

ケータイでは、低速になるのでできませんでした。

パソコンは開くのにかかるし、ケータイは速度制限でネットがサクサクうごかない。家でもできるから、あとまわしにしやすい。

ポートフォリオを記入する時間を学習にあてたほうがいいと思う。学習効果が上がるとは思わない。

紙の方がまだよかった。先生の負担は減ったかもしれないが、Wi-Fiもつながっていない学校で記入することに抵抗がある。

ポートフォリオをやる意味はないと思う。

ポートフォリオを評価に入れられない先生や、チェックをしてくださらない先生もいるのでやる意味がわからない。

他の課題やレポートで忙しいのにやる時間がない。

今年はGWまで記入ができなかったのてたまてしまい、とても負担に感じた。

ポートフォリオを知らない非常勤の先生が多い。

先生方の中でも理解や意識に差があって、やる意味がないところがあった。

